

Nara Women's University

附属小学校のコンピュータ教育

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学総合処理センター 公開日: 2010-06-25 キーワード (Ja): ウィンドウズへの切り替え, コンピュータ教育, 附小子ども館, 附属小学校 キーワード (En): 作成者: 阪本, 一英 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10935/1603 |

附属小学校のコンピュータ教育

附属小学校

阪 本 一 英

1. 附属小学校のコンピュータ教育のあゆみ

1.1. コンピュータルームの設置

本校のコンピュータ教育は、平成5年頃より始まっている。当初は、教員が所有しているコンピュータをかき集め、造形などの学習にコンピュータを使用することから実践が始められた。まだ、公立学校でもコンピュータが導入されている学校が少なかった頃のことである。その後、平成7年度にデスクトップ型PC21台（アップル社製）を配置したコンピュータルームを創設し、本格的にコンピュータを利用した教育の実践を始めている。

本校のコンピュータ教育は、「学習即ち生活であり、生活直ちに学習となる。」という本校の伝統である学習法の原点に立ち戻り、そのあり方を模索してきている。具体的には、コンピュータを教えることを目的とするのではなく、コンピュータを道具としていかに子ども達の学習生活を太らせるのかを問う教育である。そのためコンピュータを、思考の道具、発想の道具、表現の道具、創造性開発の道具、自己学習力を育む道具、自立・自律を育む道具、コミュニケーションを高める道具としていかに利用し、子ども達の学習生活を太らせるのかを追究する実践であった。これらの実践を進めるにあたっては、コンピュータルーム創設時よりコンピュータ教育の専科教員を新設し、三年間で子どもたちがコンピュータを道具として扱える土台を築けるように取り組んだ。コンピュータ教育の専科教員を配置するにあたっては、初年度は造形専科、二年次は理科専科、三年次は体育専科が不在となったが、コンピュータ教育の重要性を鑑み、その穴を全教員が補いながら進めることとなった。

これらの実践を通して、子ども達はコンピュータを道具として自分たち学習生活に生かすすべを身につけることができてきた。平成10年度頃には、附属小学校のホームページ内に「附小子ども館」と称するページを設置し、子ども達自身がし



図1 子ども達のつくったホームページ



図2 PC教室の様子

ごと学習や各教科での学習の成果をホームページにまとめ公開できるまでになった。コンピュータを利用した学習の内容でも、子ども達の各教科での研究内容のまとめ、画像やアニメーションを加工した表現作品、音声や音楽を加工・編集した表現運動の音声づくり、子ども自作のゲームなど多様であり、子どもの学習生活を充実させることができた。

1.2. 校内LANの拡張

平成12年度には、デスクトップ型PC（アップル社製）12台を各教室に設置した。これは、子ども達がコンピュータでまとめた学習成果を、教室でも利用できるようにすることや、インターネットなどを利用した調べ学習を教室でもできるようにすることを主な目的としていた。また、先端技術大学で廃棄されるPCを譲り受けることができたため、コンピュータールームのPCも42台となり、一人一台のPCが使用可能な環境を実現する事ができた。しかし予算の関係上、これらのPCへのLANケーブル設置の工事まですることはできなかった。そこで、これらのLANケーブルの取り回しは、教師と子ども達の手作業でまかなうこととなった。

各教室に1台PCが配置され、コンピュータールームで作成したデータがサーバを介して教室でも利用できるようになったことで、コンピュータを利用した学習はさらに広がりを見せるようになった。図3

は子ども達が、模造紙やコンピュータでつくったまとめ、CCDカメラによる実物提示を使い分けながら発表している様子である。子ども達が、自分たちの表現の道具としてコンピュータや模造紙



図3 模造紙とコンピュータを併用した子どもの発表の様子

などの手段を取捨選択し、自分たちの学習生活を充実させることができたと考えている。

一方、この頃問題として感じだしたことも出てきている。一つには、古くなったPCの処理速度の遅さである。この問題については、PCそのものや校内LANの更新を待つより他にない。もう一つの問題は、情報をどこまで公開するかという問題である。子ども達は、自分たちの学習でのがんばりを、家の人や親戚の人にもホームページを見てもらうことで伝えることができる。また、掲示板を設置することにより、多くの人たちの感想を聞く取り組みも始めていたところであった。この年には、第6回マイタウンマップコンクールで優秀賞にも選ばれ、子ども達の意欲もおおいに盛り上がっていた。しかし、ホームページには各種の個人情報も載せられることがあるため、学校として外部には公開せずイントラネットとして学校内だけで公開していくこととなっていく。子ども達としても、せっかくのがんばりをいろいろな人に見てもらうことができないのでは、意欲が高まらない。学校内での公開では、他学年の子ども達からの評価をもらう環境作りには時間がかかる。親や親戚などの協力を得ての子ども達への評価をもらうことはたいへん効果的なのだが、それができにくい状況になってきたのである。

1.3. ウィンドウズへの切り替え

平成14年度の終わりに、コンピュータルームの設備が一新されることとなった。初めにコンピュータルームを設置した頃は、ちょうどMS-DOSからウィンドウズに移行しつつある時期であった。本校では、子ども達が道具としてコンピュータを使いこなすことを目指していたため、迷うことなく優れた操作性を持つアップル社製のPCを機種選定した。しかし、今回の機種更新では、全国に広く普及し操作性も安定してきているウィンドウズに切り替える決断をした。教育用のソフトウェア等においても、ウィンドウズの方が豊富であろうというのも理由の一つである。各教室のPCについては、まだ更新の時期が来ていないことや、子ども達がアップル社製PCになじんでいたこともあり、古いPCを他の教室に集め第二コンピュータルームをつくった。しばらくは、マック&ウィンドウズ混在の状況である。第二コンピュータルームをつくるにあたっては、子ども達が大活躍してくれた。LANケーブルのコネクタをかしめる作業やPCの運搬、ハブの設置やLANケーブルの取り回し、果てはインターネット接続の設定まで、子ども達が喜々として働いてくれた。2年生から5年間、コンピュータに親しんできた子ども達は大したものである。

さて、平成15年度からデスクトップ型PC（富士通社製）41台のコンピュータルームとなり、3年が経過したところである。附属小学校の人員縮小のため、当初のように専科教員を設置することはできない。が、非常勤講師を配置していただくこともでき、子ども達は徐々にウィンドウズに慣れ親しむようになってきた。ウィンドウズも改訂を重ね操作性が安定してきているため、これまで行ってきた実践がそのまま生かされている。一方で、それとともに、教師も含めマックの使い方を忘れてしまっており、教室のマックが使われることがすっかり減ってしまった。また、アニメーション作成ソフトや音声加工・編集ソフトなどはマックに比べ随分使い勝手が悪く、子ども達が自由に使えるものが少ないのが困っていることである。

2. 現在の悩み

現在、コンピュータルームのPCは3年前に更新されたデスクトップ型PC（富士通社製）41台である。この更新に当たっては附属中等教育学校が、総合情報処理センターのシステム更新に合わせて機種更新をされたのに対し、附属小学校はたいへんレスポンスが悪かったようである。小学校単独での機種更新となってしまう、予算の不足から最低限の条件での更新となってしまった。コンピュータ時代であり、情報教育を推進していくべき立場にありながら情報をうまくつかめない有様。反省すべきところである。そんな中で、センターの山田さんが親身になって附属小学校へ足を運んで下さることは非常にありがたく、小学校職員一同たいへん感謝している。また、小学校教員用のコンピュータ配置についても、中等教育学校の方からの申し出で、全教員にコンピュータを配当することができた。この場をかりて中等教育学校の方にもお礼を申し上げる次第である。今後とも、センターや各附属学校園の方には、これまで以上のご厚情をお願い申し上げます。

さて、現在のシステムでは、すでにPCの処理速度がたいへん遅くなってきている。山田さんと相談しながら、とりあえず256しか積んでいないメモリを512に増設しようと知恵をしばっている段階であ

る。が、根本的な解決にはやはり全面的な機種更新を待つよりなさそうな現状である。また、各教室に配置されているPCがアップル社製であるため、イントラネット用に作成したホームページが、教室ではうまく表示されないという弊害も出てきている。せっかくコンピュータルームで作成したデータを教室で利用するという利点が失われてきているのである。学校内のコンピュータも全面的に統一する必要性を感じているのである。

この他にも、子ども達が作成したホームページを、保護者や親戚などの特定の人だけに見てもらえるようにするためにはどうすればよいかなど細々した悩みは、日々出てきている。しかし、何よりも切実な問題は、次回の総合処理センターのシステム更新時には、附属小学校の機種の全面更新をお願いしたいということである。その時期が近づいてきたら、是非、小学校にも打診していただけるよう、この場をかりてお願い申し上げます。